

# 大学創設 60 年と学生



1968年4月 入学式大講堂前

国士館は、1958（昭和33）年4月、宿願であった国士館大学を創設した。1956年に設置した短期大学体育科を発展させるかたちで体育学部を設置し、不足していた中学・高校の保健体育科の教員養成を主眼とする、単科大学としてスタートした。

大学の学科課程には、館長柴田徳次郎による週1回の「館長訓話」や行事への参加を含む「実践倫理」など、特色ある科目が設けられた。また、学生生活すべての指導を行う、館長統括の学生課職員「学生監」の設置や制服の制定など、国士館ならではの教育が進められ、独自の校風が形成されていった。



1966年 多くの学生で賑わう世田谷校舎



1968年 政経学部二部の社会人学生

高度経済成長期における大学進学者の急増により、私立大学は拡大期を迎えた。国士館では、創立50周年記念事業として学部拡充計画を掲げ、1961（昭和36）年に政経学部、1963年に工学部、1965年に政経学部二部、1966年には法学部と文学部を設置した。

政経学部二部は、働きながら学問の機会を得たい「勤労学生」の増加に応えたもので、夜間に講義を行った。当時、受け入れ大学の少なかった自衛官や警察官・消防官を積極的に受け入れたほか、入学金の免除など様々な特典を設けた。



1975年 制服自由化後の学生



1975年頃 清節寮の女子学生

1973（昭和48）年1月26日、総長柴田徳次郎が逝去した後、国士館では、学園改革の機運が高まった。

1973年6月には、全学的な「近代化委員会」が発足して、学園の改革・改善が図られた。行事への自由参加や学生による校門警備の廃止など、近代化への改革が進められて、学園の雰囲気も大きく変化した。特に、制服自由化による服装の変化は、国士館近代化のひとつの象徴でもあった。



1993年 改装後5号館LL教室



1982年11月 楓門祭パレード

急速な時代の進展は、多様な価値観をもたらした。国士館でも社会的要請に  
 え、国際化や情報化、教育・研究組織の再編を進めた。改革のひとつとして、  
 2002（平成14）年には21世紀アジア学部、2007年に理工学部、2011年に経営学部  
 を設置し、新たな学問の場を提供した。

部活動や学園祭など、学生の活動も活発化した。創立記念日を祝す伝統の学園  
 祭は、大学創設時には体育祭であったが、1964（昭和39）年に文化祭を加えて「明  
 治祭」となり、1978年には「楓門祭」と改称した。現在に至るまで、学生有志に  
 による実行委員会と教職員の協力のもとで実施されている。